

私立大学研究ブランディング事業 平成30年度の進捗状況

学校法人番号	131021	学校法人名	駒澤大学		
大学名	駒澤大学				
事業名	『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	15135人
参画組織	8学部（仏教・文・経済・法・経営・医療健康科・グローバルメディア・ステージ・総合教育研究部）、1研究科（法曹養成）				
事業概要	現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、①現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、②多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、③坐禅の身心への影響を科学的に検証し、④全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。				
①事業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 禅（ZEN）の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う。 2. 禅（ZEN）の研究を、超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する。 3. 禅（ZEN）思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する。 4. 上記の1. 2. 3. を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する全学的な組織（禅研究センター）を設置する。 				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	<p>（実施目標）</p> <p>2018年度は、引き続き学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅ブランディングWEBサイトの充実を図り、学生や社会への広報活動を行う。</p>				
③平成30年度の事業成果	<p>①研究4チーム（曹洞禅とその源流研究チーム〈以下、「源流チーム」という。〉・禅の受容と展開研究チーム〈以下、「展開チーム」という。〉・禅による人の体と心研究チーム〈以下、「身心チーム」という。〉・禅と現代社会研究チーム〈以下、「現代社会チーム」という。〉）は、研究活動を進め、その成果発表の一環として、WEBサイトコンテンツ28件を作成すると共に、各研究チーム主催または合同でのイベント等を開催し、外部発信を行った（6/7音楽法要、9/25禅の国際化講演会、10/8禅をきく会、10/15・22、11/5・19「禅の歴史」連続講座〈4日間・8講座〉、11/16・17禅と心シンポジウム、12/14禅の声、12/2～12/7臘八坐禅）。</p> <p>②禅ブランディング発信事業チーム（以下、「発信チーム」という。）により禅ブランディング事業WEBサイトにコンテンツ28件を掲載し、インスタグラムも開設した。また、3件の対談収録を行い、1件を公開した（https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/contents/1018/）。また、制作物としてクリアファイル、トートバック等を制作し、各研究チームのイベントや、大学の行事などで配布して、禅ブランディング事業の訴求に使用した。</p> <p>③4月に禅文化歴史博物館内に禅ブランディング推進係が開設され、教務部研究推進課が担当していた業務を引き継いだ。禅ブランディング事業全体に関わる、予算編成及び、執行を始めとした事務運営を行った。</p> <p>また、禅ブランディングプロジェクトチーム会議4回、チームリーダー連絡会21回、自己点検・評価委員会1回、行った。発信事業の事務支援として、WEBサイト、インスタグラム運営、サーバー管理等を行った。</p>				

<p>④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>①各チームによる研究も進み、その成果をWEBサイトに公開したが、イベントが後期に集中したため、成果としてまとめきれていないものが多く、コンテンツを増やしていくことが今後の課題となっている。</p> <p>2018年度は、多くのイベントを開催したが、在校生の参加が少なかったことが課題となった。今後は内容の検討とともに周知の方法を考えたい。</p> <p>②新規開設したインスタグラムには、禅語の書や仏教にまつわる動画、写真を投稿し、新たな発信媒体として軌道に乗せることができた。しかし、フォロワー数は依然として少ない状態であり、認知度を高めることが課題となった。今後は更にWEBサイト、インスタグラム共にコンテンツの充実を図り、発信力を高めていきたい。</p> <p>③定期的にチームリーダー連絡会を開催し、研究チーム間の情報共有を図ることができた。禅ブランディングプロジェクトチーム会議の開催や、研究活動推進委員会への審議事項の上程により、当事業の取り組みが学内全体で理解が得られるよう努めた。</p>
	<p>(外部評価)</p> <p>◎明林寺住職・西田正法 氏</p> <p>【事業全体に対する評価】</p> <p>○当該事業の適切性・妥当性について</p> <p>4項目に纏められた「事業の目的」を拝見し、禅研究の最先端にあることを自負する駒澤大学が、全学体制で『禅と心』をテーマとして学際的国際的拠点づくりを目指すことは、時代に即応した適切性・妥当性を有する勝れた事業であると思う。</p> <p>今や禅は、一宗一派を超えてZENとして世界的な広がりを呈している。斯かる情勢の中、学問の府としての駒澤大学が、深い研究に裏打ちされた正しい禅を広く社会に発信することは、時代の要請とも言えよう。5チームの密接な相互協力の上に、「何を」「誰に」「どのように伝えるか」を明確にし、混迷の時代に一石を投じて頂くことを期待する。</p> <p>○当該事業による目的の実現可能性について</p> <p>目的実現の可能性は実に高いと言えよう。本事業は、駒澤大学にとって決して0からの出発ではない。特に、〈源流研究〉〈受容と展開研究〉〈人の体と心研究〉の各チームにおいては、永年に亘る研究の経験と実績がある。目的とする、〈1、「心」の問題に対する新たな提言、2、領域を超えた新たな研究視座の獲得、3、最先端の機器を用いた科学的検証、4、混迷の一途をたどる国内外に向けた発信〉の実現は、現代社会を正確に捉えどう分析するかにかかっているのではないだろうか。全学的体制の上で為される本事業が、学部や研究者間の壁を超え、現代社会の把握と分析において確かな結果を出すこと、それ自体が現代社会への大きな提言になるのではないか。</p> <p>◎多摩大学経営情報学部教授・趙 佑鎮 氏</p> <p>【事業全体に対する評価】</p> <p>○当該事業の適切性・妥当性について</p> <p>禅（ZEN）の思想的研究を基礎とした現代人が抱える「心」の問題に対する新たな提言。 禅（ZEN）の研究を、超領域的に行うことを通した、新たな視座の獲得。 禅（ZEN）思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響の科学的検証。</p> <p>上記を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する取組は、『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業に向け、駒澤大学における既存研究の蓄積をさらに深化させ、また新たな視点を取り入れ進化していくことにより、駒澤大学をより一層発展させるための駒澤ブランドを明確にする事業足り得るものであり、その適切性・妥当性について高く評価する。</p> <p>去年より一歩進んだかたちで、学内諸部署と各研究チームにおける連携を図っている点が最も肯定的影響を学内に及ぼしていると推察するものである。課題としては、本来この指摘は事業最終年度で行うレベルのものであるが、この事業によるブランドアイデンティティが学生の意識にどのように変化をもたらしたかをより明確にすることであろう。</p> <p>○当該事業による目的の実現可能性について</p> <p>禅ブランディング事業 5ヵ年計画の3年目となり、駒澤ブランドとして、 オリンピックを目途とした禅（ZEN）の世界的評価 禅（ZEN）教育の企業経営への応用 禅（ZEN）による学生のアイデンティティ</p> <p>の確立に向けて、チーム毎の研究内容も蓄積され、関係部門との連携による活発な勉強会・研究会が多数開催され、より深まりと広がりが見えている。また、シンポジウムやウェブサイト、インスタグラム等により研究事業が的確に発信されており、目的の実現に非常に期待が持てる。</p>
<p>⑤平成30年度の補助金の使用状況</p>	<p>2018年度の事業経費として、24,446,226円を使用した。</p> <p>補助金の主な使用状況は、各チームの調査・研究経費、各種イベントの開催費用、本事業の広報活動費、禅ブランディンググッズの作製費等である。</p>